

JDDW 2021 メディカルスタッフプログラム

メディカルスタッフプログラム 1

「新型コロナウイルス時代における多職種連携」 **公募・一部指定**

11月5日(金) 9:00-12:00 (第13会場)

司会：藤田 直久 (京都府立医大・感染制御・検査医学)
伊藤 義人 (京都府立医大大学院・消化器内科学)
残間由美子 (坂総合病院・感染制御室)

【司会の言葉】

世界中に拡散した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は呼吸器感染症としてのみならず、心血管系や消化器系など多彩な全身臓器に障害を引き起こし、その蔓延を阻止すべく努力が積み重ねられているが、2020年10月現在、克服には程遠い感がある。COVID-19は無症候性の感染者もまれでなく、また、多くの医療機関はパンデミック対応ではなく、患者対応にはこれまでの感染症対策を超えた多職種連携が必要である。医療事務職員による発熱者のスクリーニング、遺伝子検査のできる検査技師の育成、熟練した放射線技師によるCT検査の施行、感染症対策に精通した看護師の養成が不可欠なのは言うまでもなく、入院した高齢者・要介護者においてADLの低下や認知症の悪化を防ぐため、対応可能な理学療法士や介護士の養成を進めなければならない。臨床工学士、感染管理看護師、病院長・事務長、さらに疫学者を含めた多職種連携の推進に関して独創的な問題提起を期待したい。

メディカルスタッフプログラム 2

「消化器チーム医療における医工連携」 **公募・一部指定**

11月6日(土) 14:00-17:00 (第13会場)

司会：中島 清一 (大阪大大学院・次世代内視鏡治療学)
加藤 貴充 (医誠会病院・臨床工学部)

【司会の言葉】

消化器領域においては、医学分野と工学分野の連携による新技術の臨床導入、すなわち「医工連携」は、おもに軟性内視鏡ならびにその周辺技術を中心に進められてきた。我が国は、ながく軟性内視鏡分野において技術的な優位性を保持しており、この領域においてはいまだ他国の追従を許さないレベルにあると言えよう。しかしながら、これまでに見られた連携の多くは医師と(企業や大学の)技術者との間の「狭義の医工連携」であって、医療に携わるメディカルスタッフ全職種が、院外の企業や大学の技術者だけでなく、じぶんたち自身、すなわち医師や看護婦、工学技士や検査技師らで広く連携する「広義の医工連携」については、かならずしも活発になされてきたとは言い難い。本プログラムでは、メディカルスタッフ間にさらなる連携が求められている消化器チーム医療において、医工連携はどうあるべきか、その課題や将来への展望について考えてみたい。